

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472300484		
法人名	有限会社湯布商事		
事業所名	グループホーム「花の里」		
所在地	大分県由布市庄内町西361番地		
自己評価作成日	平成26年2月24日	評価結果市町村受理日	平成26年5月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成26年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○本人の意思、ご家族の希望があれば、かかりつけ医と相談の上、終末ケアに取り組んでいる</p> <p>○認知症状が進行しても本人にとって環境を変えず、ご家族も希望すれば出来る限りの暮らしを続けていけるよう努力する</p> <p>○スタッフの働きやすい職場、協力性、和を重視し、職員の交替がないよう努力している</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>・管理者や職員は家族が困っていることや不安なこと、求めていることを把握して利用者本位に検討し、穏やかな日々が送れるように支援している。</p> <p>・重度化や終末期のケアとして、早い段階で家族に意向を聞き、事業所内で看取りケアが出来るよう取り組んでいる。管理者が看護師であり、多くの医療機関とつながりを持ち、利用者の症状に応じて適切な医療が提供できるようにしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の重度化、高齢化に伴い安全で安心できる暮らし、ご家族にとっても安心して任せられるホームでありたい。地域の中で暮らすための交流を理念としておりスタッフも理解している。	「安心・安全・地域とのつながりを大切に・・・」等を掲げ、日々のケアや定例会議で振り返りをし実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板や自宅でもれた野菜や手作りの万十等届けとくれ、日常的な交流やホームの理解者も多くなっている。 買い物も地域のお店を利用している	当事業所は、平成12年に開設されている。経験豊かな事業所として、地域の困りごと相談や認知症ケア・高齢者介護などに関わり、事業所の力を発揮している。敬老の日には、地域の高齢者全員に饅頭の配布を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の一人暮らしの家を訪問したり、ホームに理容師が来た時は地域の人も利用している。今後は地域の方の困っている事に目を向け支援を考えている。看護学生の実習や研修施設として受け入れしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当ホームの質の向上のために委員の意見を聞いたりして参考にしている。2ヶ月間のホームの様子は写真や言葉で分かりやすく紹介して理解を求めている。	会議には、介護保険課、有識者、地域包括支援センター、ボランティア、住民、家族などの参加がある。ホームの取り組み状況を2ヶ月ごとの広報に「日々のご様子」の欄を設け理解してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談事や利用者の作品を市報に載せてもらえないかと窓口に行くこともある。又、認定更新の時はホームの様子等も説明させてもらっている。	市の担当者に困りごとの相談や市報の掲載について尋ねる事もある。又、居宅介護支援センターのケアマネジャーに困難事例について相談し、適切な助言をしてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には身体拘束はしないということをスタッフ全員で統一している。しかし、生命に危険を生じると判断した場合はご家族に説明の上、何らかの方法をとることもある。現在はそんな方はいない。	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。看取りケアや重度の皮膚疾患に対し、生命維持を優先して医療スタッフや家族に相談をしている。勉強会を定期的に行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症高齢者についての研修は出来るだけ受講し理解を深めることにより虐待は絶対あってはならないことをスタッフ全員が承知している。気づかないうちに傷つけている場合もあるため、勉強会も定期的に行っていく必要があると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要としている対象者は少ないが、対象者が入居した時には安心した生活が出来るよう支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項に沿って説明をしている。特に急変時の対応、日常のかかりつけ医、看とりについての説明には時間をとっている。又、ホーム側の過失による事故についても説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が気軽に話せる雰囲気だと思っている。ホーム側からもアドバイスをもったり、一緒に考えたりできる状況である。	家族の意見や要望を反映し、重度化や超高齢化による病状悪化の利用者に対して、多くの医療機関との連携を図り穏やかな生活が送れるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見も多に出せる関係である。コミュニケーションは充分にとれている。	職員の業務改善や時差出勤など働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事や家庭、子育てがうまく回るよう就業時間や勤務変更も受け入れ働きやすい職場であることが意欲にもつながり、長く働くことができると考えて対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量や専門性を把握し、質の向上やバランスに努める。研修や資格取得については積極的に進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	由布市内で行われる会合にはなるべく出席し情報交換している。由布市外においても小規模連絡会にも世話人として出席、勉強会にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人の状態状況を十分に把握し、本人の気持ちを大切にしたいと考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や困っていることを聞き、事業所としてできること、また家族に協力できることはお願いし本人との関係を維持していくよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の性格や通してきた生活の様子を大切にしている。どのような形で先づ最初受け入れるかスタッフ間で話し合っている。試験時入居や半日過してもらおう等もしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で暮らすことを基本としている。協力性や助け合いの精神で利用者同士でもみられる場面が多い。人生の大先輩としての知識はすごいと感じている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人が安心して安全そして不安なく過せるためには常に家族と連絡を取り合っており、良い方向性へとつなげている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人、ご近所の方等の訪問や電話で声を聞く、又は話題にも関係性を多に利用している。	利用者が培ってきた馴染みの関係が続けられるように、家族に電話で面会を促し、故郷訪問や芝居見物に行っている。また、3姉妹で遠距離の故郷への旅行ができるようにと健康管理を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が食介してくれたり、礼服を整えたり寒くないか又は、朝起こしに行ってくれたり1つ屋根の下で暮らす家族の様子だと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終末ケアまで行っているため、ほとんどの方は死亡退去という形である。 他の理由で退居された方も同一敷地内にある通所を利用したりで常に本人の希望を聞き支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制にしているため本人の気持ち(孫や姪の結婚式にも出席したりしている)出来る事、出来ないこと等よく理解している。スタッフの考えで動くのではなく本人の身体、精神、両面から真意を推し計る。	ケアマネージャーは、思いや意向を把握するためにきめ細かなアセスメントを行い、出来る事・出来ない事を明らかにしている。一人ひとりのつぶやきや表情から思いを読み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人らしく過ごすことができるということは、これまでの生活や生活リズムが継続できると思う。そのためにも本人の大切にしている事や家族関係等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADLや心身の状態も含めその人が安心して安全な生活ができる様、支援している。又、出来る事や得意とすることを大切に生きていきがいにつながるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を中心にアセスメントを充分に行い、スタッフ全員が同じ方向でケアできるようにしている。 状態の変化に応じカンファレンスを行い現状に即したプランにしている。	アセスメント表を基に職員の意見を聞き、一人ひとりの介護計画書を作成している。実践、モニタリングを行い、見直しの計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中の様子や気づきや本人の思い等、細かく記録している。 モニタリングや介護計画の見直しの際に、活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的には家であるという視点から、利用者にとって必要だったり、又、家族の希望も取り入れ 思いや気持ちというところを大切に、かなり柔軟な対応ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターの職員が運営推進会議に出席している事から、情報の交換が出来る、又、訪問理容や社協のバスを借りたりして梅見物に行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は継続している。専門外の受診が必要なときは紹介状にて専門医を受診している。必要に応じ家族への証明も主治医よりしてもらおうことで家族の安心と共に三者の関係も良好。	多くの医療機関とつながりを持ち、利用者の症状に応じて医師と連携している。管理者が看護師であり、医師に相談し、適切な医療が提供されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置もあり、常に利用者の健康状態を管理できている。異常や急変時にも適切な対応ができることは、重要なことである。介護職との連携もできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	骨折やその他の疾患で入院をした時は、病院側と良く話し、出来るだけ早く元の生活に戻れるよう入院中も経過観察や情報をもらえるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末においては、利用者の状態や状況から家族、医師とよく話し合いを持ち、三者が利用者にとってどこでどの様に過ごすことが幸せなのかを考えて決めている。同意書を頂くようにしている。	重度化や看とりケアについて、早い段階で家族に意向を聞いている。当事業所では複数の専門職が常勤しており、医療との連携が図られ終末ケアが行われている。同意書もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	経験から慌てず何をすべきか誰に連絡すべきかをマニュアルや看護職員から指導してもらっている。年に1回の消防職員による救命講習も受け実践できるよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、4月と10月に防災訓練をしている。防災設備も慌せず作動できるようスタッフ間で確認したりと意識付けをしている。自主訓練も定期的に行うことが今後の課題である。	避難訓練は年に2回行っている。日頃より訓練を繰り返すことで、落ち着いた行動が出来るようにしている。井戸水の設備や備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令調になってないか、又は、子供扱いしていないか等は常に気をつけている。 排泄介助時の声かけには特に気をつけるようケア会議の時には課題とする。	利用者一人ひとりの尊厳を直視し、命令調になっていないか、子ども扱いしていないか振り返りをしている。特に排泄時の言葉づかいや行動などは、会議の議題にして検討をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好みの料理を聞いたり、お菓子や飴等好きな物を選んでもらったりしている。自己決定できない方に対しても、表情や動作で好き嫌いがわかる様になっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事をすることにおいても必ずお願いできますかと声かけしている。一方的に押し付けることのない様にしている。一人で過ごしたい時間も大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に身きれいで過ごすことは花の里の目標でもあるので、利用者の衣類やヘアー等にも気を配っている。よく似合っているねとか、あなたらしいね等声かけしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る人が出来ることをしながら、家庭として暮らしている。食事の準備や後片づけ等一緒に行っている。又、同じ食事をテーブルを囲み食べている。	開設当初より、手作りの食事を続けており、地元の野菜を地域のスーパーで仕入れ、地域との触れ合いの場としている。利用者の意見を聞いて献立を考え、職員と一緒に食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランス良い食事は心がけている。一人ひとりにあった内容形態も考え栄養が摂れる食事に行っている。食事量や水分のチェックも行い健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは徹底している。その人に合った歯ブラシを使用したり、舌ブラシも使用している。訪問歯科医との連携もあり安心している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄ができるよう一人ひとりに合わせた援助を行っている。誘導時間がパットやパンツ類の種類も考慮し清潔気持ち良く過してもらおうよう支援している。	重度化している中で、トイレ誘導による排泄を試みている。おむつはできるだけ避けるなど、家族の経済的負担も考慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容や水分摂取、そして運動等取り入れなるべく薬に頼らない支援を心がけている。高齢化が増えてくるとどうしても運動不足になりがちである。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お元気な方や、入浴が好きな方、又高齢で衰弱している方等一人ひとりに合った回数や時間を考えて行っている。入浴しない日は、足浴、手浴も行っている。	入浴は平均、週2～3回入っている。入浴のない日は手浴、足浴を行い、職員との触れ合いもある。精神的にも安定している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの希望で早く部屋に入る方やホールで過ごす方、又、高齢の方や症状により車椅子で起きているのが辛い方等それぞれで安楽な形をとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは薬の作用、副作用を説明書にて把握している。定期の薬以外臨時の内服薬についても看護職員からの説明や申送りにて把握するようにしている。一人ひとりの支援方法も徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔していたどの様な仕事していたか又、趣味や得意な事を知り、日常の中で本人の力を出せる環境作りに努めている。笑顔や張り合いが出て楽しい時間となっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出可能な方には大いに支援している。外食だったり小旅行だったり芝居や地域の方と一緒にの梅見も毎年行っている。	地域のお店での買い物や地域の人との梅の花見・事業所周辺の散歩などを通じて外気に触れている。また、外食や小旅行、芝居の見物に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	これまでは買物支援に結びつく利用者はいなかったが、金銭の支援は大事な事と考えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親しい方には時々声を聞かせてあげたりしている。何も話さなくても声が聞こえるだけでも良いと考えている。本人の希望でかける時や送りものが届いた時等は必ずしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族的であるということを大切にしている。職員も利用者の方も長い間一緒に過ごし、ごく自然に時間が流れている。ホールには毎月の季節を表す貼り絵があったり季節に合わせて置物も飾り癒しとなっている。特に臭い換気や室温には気をつけている。	古民家を改築した建物であり、家庭的な雰囲気がある。利用者と職員が常に寄り添い、穏やかな時間を過ごしている。四季折々の貼り絵を飾り、季節感を感じる置物を置いている。臭気もなく、換気、室温に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いスペースの中にも食卓テーブルの他にテレビの前のソファや窓側のソファ等でくつろいだりしている。大勢の面会者の部屋も用意できるようにした。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の思い出の品、写真だったりお気に入りの洋服をハンガーにかけてあったりと本人の気持ちを大切にしている。	一人ひとりの培った思い出の品や写真、作品が置かれている。一人ひとりの身体機能に合わせたベッドの高さとして、自立を損なわない配慮がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状態に応じて部屋だったりベッドだったり又、ベッドの高さや位置等考えて自立又は、安全に暮らせるよう支援している。		